

令和5年2月10日

各位

トモニホールディングスグループの令和5年3月期第3四半期決算概要について

トモニホールディングス（本社：香川県高松市、社長：中村 武）は、令和5年3月期第3四半期（令和4年4月1日～令和4年12月31日）連結業績等の概要と、当社グループの中核企業である徳島大正銀行（本店：徳島県徳島市、頭取：板東豊彦）及び香川銀行（本店：香川県高松市、頭取：山田径男）の単体業績等の概要について発表いたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. トモニホールディングス

(1) 令和5年3月期第3四半期（令和4年4月1日～令和4年12月31日）連結業績

当第3四半期における経営成績につきましては、経常収益は、貸出金利息、有価証券利息配当金及び株式等売却益が増加したこと等により、前年同期比7,295百万円増加して57,710百万円となりました。経常費用は、国債等債券売却損、外国為替売買損及び与信関連費用が増加したこと等により、前年同期比7,203百万円増加して42,747百万円となりました。その結果、経常利益は、前年同期比91百万円増加して14,962百万円となり、親会社株主に帰属する四半期純利益は、法人税等の増加により、前年同期比184百万円減少して10,603百万円となりました。

当第3四半期末における財政状態につきましては、総資産残高は、前年度末比943億円増加して4兆6,903億円となり、純資産残高は、前年度末比47億円減少して2,410億円となりました。また、譲渡性預金を含む預金等残高は、前年度末比1,332億円増加して4兆1,953億円、貸出金残高は、前年度末比1,694億円増加して3兆3,993億円、有価証券残高は、前年度末比334億円増加して7,612億円となりました。なお、自己資本比率（国内基準）は8.66%となりました。

		令和5年3月期 第3四半期	
			前年同期比
損益	経常収益	57,710百万円	7,295百万円
	経常費用	42,747百万円	7,203百万円
	経常利益	14,962百万円	91百万円
	親会社株主に帰属する四半期純利益	10,603百万円	△184百万円
		令和5年3月期 第3四半期末	
			前年度末比
主要勘定残高・諸比率	総資産	46,903億円	943億円
	純資産	2,410億円	△47億円
	預金等（譲渡性預金を含む）	41,953億円	1,332億円
	貸出金	33,993億円	1,694億円
	有価証券	7,612億円	334億円
	自己資本比率（国内基準）	8.66%	△0.18%

(2) 令和5年3月期通期（令和4年4月1日～令和5年3月31日）連結業績予想

令和4年11月11日に公表しております令和5年3月期通期の連結業績予想につきましては、修正ございません。

2. 徳島大正銀行

(1) 令和5年3月期第3四半期（令和4年4月1日～令和4年12月31日）単体業績

当第3四半期の損益状況は、経常収益は、貸出金利息、有価証券利息配当金及び株式等売却益が増加したこと等により、前年同期比6,419百万円増加して30,995百万円となりました。

また、コア業務粗利益は、資金利益が増加したこと等により、前年同期比690百万円増加して22,535百万円となり、銀行本業の収益を示すコア業務純益は、経費が減少したこと等により、前年同期比1,106百万円増加して9,213百万円となりました。

経常利益は、前年同期比167百万円増加して8,210百万円となり、四半期純利益は、法人税等の増加により、前年同期比109百万円減少して5,759百万円となりました。

当第3四半期末の主要勘定残高の状況は、譲渡性預金を含む預金等残高は、個人預金を中心として増加し、前年度末比583億円増加して2兆3,282億円となりました。預り資産を加えた総預り資産残高は、前年度末比554億円増加して2兆4,451億円となりました。また、貸出金残高は、中小企業・個人向け貸出等に積極的に取り組みました結果、前年度末比915億円増加して1兆9,187億円となりました。なお、自己資本比率（国内基準）は7.92%となりました。

金融再生法開示債権額は、前年度末比5,742百万円増加して38,487百万円、総与信に占める割合は1.97%となりました。

		令和5年3月期 第3四半期	
			前年同期比
損益	経常収益	30,995百万円	6,419百万円
	コア業務粗利益	22,535百万円	690百万円
	コア業務純益	9,213百万円	1,106百万円
	経常利益	8,210百万円	167百万円
	四半期純利益	5,759百万円	△109百万円
	本業利益	7,137百万円	2,281百万円
	与信関連費用	1,091百万円	601百万円
		令和5年3月期 第3四半期末	
			前年度末比
主要勘定残高・諸比率	総資産	26,113億円	578億円
	預金等（譲渡性預金を含む）	23,282億円	583億円
	総預り資産	24,451億円	554億円
	貸出金	19,187億円	915億円
	有価証券	4,228億円	306億円
	自己資本比率（国内基準）	7.92%	△0.15%
不良債権	金融再生法開示債権額	38,487百万円	5,742百万円
	総与信に占める割合	1.97%	0.21%

3. 香川銀行

(1) 令和5年3月期第3四半期（令和4年4月1日～令和4年12月31日）単体業績

当第3四半期の損益状況は、経常収益は、貸出金利息及び有価証券利息配当金が増加したこと等により、前年同期比652百万円増加して21,103百万円となりました。

また、コア業務粗利益は、資金利益が増加したこと等により、前年同期比569百万円増加して17,411百万円となり、銀行本業の収益を示すコア業務純益は、経費が減少したこと等により、前年同期比856百万円増加して6,697百万円となりました。

経常利益は、与信関連費用が増加したこと等により、前年同期比153百万円減少して6,497百万円となり、四半期純利益は、前年同期比24百万円減少して4,667百万円となりました。

当第3四半期末の主要勘定残高の状況は、譲渡性預金を含む預金等残高は、個人・法人預金ともに増加し、前年度末比748億円増加して1兆8,720億円となりました。預り資産を加えた総預り資産残高は、前年度末比708億円増加して2兆88億円となりました。また、貸出金残高は、中小企業・個人向け貸出等に積極的に取り組みました結果、前年度末比779億円増加して1兆4,894億円となりました。なお、自己資本比率（国内基準）は9.34%となりました。

金融再生法開示債権額は、前年度末比2,553百万円増加して28,493百万円、総与信に占める割合は1.87%となりました。

		令和5年3月期 第3四半期	
			前年同期比
損益	経常収益	21,103百万円	652百万円
	コア業務粗利益	17,411百万円	569百万円
	コア業務純益	6,697百万円	856百万円
	経常利益	6,497百万円	△153百万円
	四半期純利益	4,667百万円	△24百万円
	本業利益	4,522百万円	909百万円
	与信関連費用	408百万円	484百万円
		令和5年3月期 第3四半期末	
			前年度末比
主要勘定残高・諸比率	総資産	20,746億円	366億円
	預金等（譲渡性預金を含む）	18,720億円	748億円
	総預り資産	20,088億円	708億円
	貸出金	14,894億円	779億円
	有価証券	3,365億円	27億円
	自己資本比率（国内基準）	9.34%	△0.23%
不良債権	金融再生法開示債権額	28,493百万円	2,553百万円
	総与信に占める割合	1.87%	0.08%

以上

【本件に関するお問い合わせ先】

トモニホールディングス株式会社 経営企画部	TEL：087-812-0102
株式会社徳島大正銀行 企画部	TEL：088-656-1118
株式会社香川銀行 総合企画部	TEL：087-812-5132